

# 活字をはみだすもの 第17回

## 寺山修司「家出のすすめ」、その後 —「婦人公論」のエッセイから

◇開催 10月20日(土) 13:00~14:00

今年は、寺山修司が42歳で没して35年になるが、いまだにその人気はおとろえない。おとろえるどころか、現代のメディア状況を先取りしたような寺山の世界は、その存在感を増しているともいえよう。マルチな活動を展開した寺山修司にとって、女性雑誌や女性向けのメディアは重要な発表場所であり、自由な発言が出来る場所でもあった。実際の中学生家出事件に触発されて「婦人公論」に書かれたエッセイは、そのタイトルも「家出“実行”のすすめ」であった。有名なエッセイ「家出のすすめ」をもじったもので、家出をめぐるその後の変化をたどっている。寺山自筆の原稿をもとに、女性向けメディアについて考える。

【講師紹介】 多摩大学教授、1959年生。1920年代から30年代にかけての文学と諸芸術との交流を研究テーマとする。



講師 中澤 弥 先生

## 谷崎潤一郎と新橋花柳界 —「花の段」の周辺

◇開催 10月20日(土) 15:00~16:00

関西文化の心酔者とされる谷崎潤一郎が、晩年、新橋花柳界に肩入れしていたことはあまり注目されていません。浅草に生まれ、江戸古曲の各流に通じ、戦後は新橋演舞場の再建に尽力、一中節の人間国宝に指定された篠原治(しのはら・はる)と谷崎の交流を探ります。谷崎は東をどり「少将滋幹の母」を舞踊劇化した頃から篠原と家族ぐるみの付き合いを始めました。谷崎作詞の「花の段」で篠原は文部大臣奨励賞を受賞(1956)。また、喜寿祝いの自叙伝『菊がさね』(1956)は、谷崎自らが文章の添削まで引き受けています。明治・大正・昭和の新橋花柳界を双肩に担った篠原は、人物としても様々な逸話に富んでいます。残された資料から、東京の芸事の世界に魅せられていた知られざる谷崎の姿に光を当てます。

【講師紹介】 実践女子大学教授、1976年生。佐藤春夫を中心に、美術と文学ジャンルの交流や作家の異文化理解に関心がある。編著に『佐藤春夫読本』(2015.10 勉誠出版)。



講師 河野龍也 先生

## 室生犀星の書簡を読む愉しみ —知人への、編集者への、そして妻への手紙

◇開催 11月3日(土) 13:00~14:00

室生犀星の書簡を幾通か取り上げ、そこに認められる犀星の「理」や「情」、そして、思いも掛けぬ一言から想像される相手との関係性や犀星自身の都合など、皆さんと一緒に読み解き、楽しみたいと考えています。送金してくれた「妻」へと軽井沢から投函した葉書に添えられた意外な一言、雑誌を献呈してくれた事への礼状に綴った温かな言葉、受け取った原稿料の少なさに対して次回の稿料を上げてくれとの依頼をする「編集者」への1通など、残された書簡から、犀星という人のその時々を共に思い描いてみましょう。

【講師紹介】 横浜市立大学教授、1961年生。芥川龍之介の〈人〉と〈文学〉を主たる研究テーマとし、出版メディアと作家、読者の関係にも関心を持つ。また、作家が聴いた音楽を蓄音機とSPレコードで再現するレコード・コンサートなども企画・開催している。



講師 庄司達也 先生

「近代文学研究」を資料から考える勉強会Ⅱ 11月3日(土) 15:00より 小店3階催事場にて開催  
研究者向けのシンポジウムですので、専門的な内容になりますが、ご興味のある方は御一報ください。



※参加費無料 参加ご希望の方は左記 QR コード、または別紙申込書をご覧ください。 (2018.9.28)

八木書店 古書出版部 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-1 営業: 10時~18時 定休: 日祝  
TEL 03-3291-8221 FAX 03-3291-8223 <https://catalogue.books-yagi.co.jp/> <mailto:kosyo@books-yagi.co.jp>